

福岡県におけるこれまでの取組について

平成27年8月7日

福岡県保健医療介護部薬務課

差額通知について

先発医薬品の処方を受けている患者に対して、ジェネリック医薬品に切替えた場合の自己負担額の軽減について個別にお知らせするもの

県実施のモデル事業

- ◆ 平成21年度より、差額通知のモデル事業を開始
- ◆ 平成27年度は、9市町(下記)及び後期高齢者医療広域連合で実施(毎月通知を送付)

飯塚市、大野城市、春日市、嘉麻市、久留米市、太宰府市、筑紫野市、那珂川町、桂川町

主な保険者での取組

- ◆ 全国健康保険協会(協会けんぽ) 福岡支部
 - ・平成26年度は171,295件の通知を送付(全2回)
 - ・平成26年度第1回通知により、通知翌月において29.7%の方がGEに切替え、それにより約3,500万円/月の削減効果があった。
- ◆ 健康保険組合連合会福岡連合会
 - ・32組合中22組合で実施(平成25年度時点)
- ◆ 福岡県国民健康保険組合連合会
 - ・64保険者中62保険者の差額通知作成業務を受託(平成26年度)
 - ・福岡県国保において、平成27年3月処理データまでで、累計322,144人に通知し、累計27.3%が切替えた。それにより、同月処理データにおいて、約7,400万円/月の削減効果があった。

ジェネリック医薬品に切り替えた場合のお薬代の自己負担額の軽減に関するお知らせ

平成99年99月99月に処方されたお薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合、お薬代の自己負担額の軽減可能な割合は、

おおよそ 30% が見込まれます。

※試算はお薬代のみを対象としています。実際に支払になる金額には、薬の調剤等に要する費用が含まれています。ジェネリック医薬品に変わっても、実際の支払金額は変わらないこともあります。

明細

この明細は、平成99年99月99月のお薬の処方の実績に基づき、処方された医薬品(先発医薬品)をジェネリック医薬品に切り替えることで軽減できる自己負担額を試算し、ご紹介しています。

平成99年99月99月に処方されたお薬					ジェネリック医薬品に切り替えた場合の軽減可能な割合(※3)
先発医薬品名(※2)	薬の単価	数量	単位	お薬代(※1) 3割 負担額	割合(※3)
薬前					
オキザロール軟膏25mg/R 0.0025%	123.2	20	g	730	
アスケット外用液1%	41.3	20	mL	240	
アスケット軟膏1%	41.3	20	g	240	
テカアチムクリーム1%	41.1	10	g	120	
ワレバルクリーム10%	7.1	20	g	40	
合 計				1,370	おおよそ 30%

※1 試算はお薬代のみを対象としています。実際に薬局へお支払いになる金額には、お薬代以外に技術料、指導料などが含まれています。なお、国や市町村から医療費助成を受けている場合には、実際の支払い金額と異なる場合があります。

※2 本明細書には、ジェネリック医薬品が存在する先発医薬品(医師の指示により変更できないお薬も含む。)を載せています。なお、軽減できる割合の大きいお薬から記載しており、多くのお薬を処方されている場合は、本明細書に記載しきれない場合があります。

※3 ジェネリック医薬品は1つの先発医薬品に対して複数存在するため、実際の軽減額にも幅がありますのであくまでも目安としてご覧ください。

注1 先発医薬品とジェネリック医薬品とは主成分が同一ですが、使用できる病室(効能)が異なるなどの理由で切り替えることができない場合があります。

注2 同じ医薬品(先発医薬品やジェネリック医薬品)であっても、個人によって処方方や副作用など異なる場合がありますので、医薬品に関する詳しい内容は医師または薬剤師の薬剤師にご相談ください。

000190

福岡県国民健康保険組合連合会資料より引用

差額通知事業の実績について

県のモデル事業を実施している10保険者における差額通知事業の実績

(平成27年3月処理データ分、一部抜粋)

	国保連合会 システムでの 通知開始時期	通知事業の実績				後発医薬品 普及率(新指標)	
		通知者数	切替者数	切替率	薬剤費削減額	数量	金額
		(累計, ①)	(累計, ②)	(%, ②/①)	(円/月)	(%)	(%)
飯塚市	平成23年10月	14,095	2,953	21.0	2,002,065	52.5	31.5
大野城市	平成24年 2月	3,621	1,191	32.9	1,057,717	55.4	37.8
春日市	平成25年 4月	3,977	977	24.6	1,087,413	54.3	37.2
嘉麻市	平成24年 5月	3,783	680	18.0	461,460	49.3	26.3
久留米市	平成24年 3月	8,792	2,960	33.7	3,475,361	60.2	37.5
太宰府市	平成23年10月	5,468	1,641	30.0	1,227,245	57.1	37.9
筑紫野市	平成23年12月	5,329	1,719	32.3	1,565,791	55.7	36.3
桂川町	平成24年 5月	1,333	222	16.7	153,209	50.8	28.5
那珂川町	平成24年 4月	2,904	899	31.0	814,454	58.7	37.4
後期高齢	平成23年12月	243,459	100,384	41.2	116,970,562	52.2	31.0

※通知対象者の選定(各保険者で一部異なる場合あり)

- 差額が100円以上(後期高齢は概ね200円以上)
- 悪性腫瘍、精神疾患のものを除外
- 短期に処方された薬剤を除外
- 公費負担医療受給者(一部保険者では除外していない)を除外
- 前回通知から一定期間経過していないもの、過去複数回送付済みのものを除外 等

基幹病院採用ジェネリック医薬品リストについて

ジェネリック医薬品の使用促進を目的として、県内あるいは地域の基幹病院が採用しているジェネリック医薬品のリストを作成し、医療機関・薬局に配布

対象地域	配布時期	基幹病院数	配布先	備考
福岡県全域	平成27年2月	12施設	県内21医師会：計4462部 県薬剤師会：2500部	平成21年3月、 平成24年10月にも配布
福岡市	平成27年3月	13施設	福岡市医師会及び基幹病院：計1430部 福岡市及び周辺の薬剤師会：計1040部	各地区の地域協議会に リスト作成委員会を設置し て作成
北九州市 (八幡地区)	平成27年3月	6施設	八幡及び周辺の医師会：計476部 八幡及び周辺の薬剤師会：計1220部	
八女筑後地区	平成27年3月	2施設	八女筑後医師会：107部 八女筑後薬剤師会：75部	
田川地区	現在作成中			

- 病院・診療所において、後発医薬品の採用品目を決定する際の参考となった。
- 薬剤部から医師にジェネリック採用品目を説明する際に、説得材料として活用できた。

福岡県基幹病院採用ジェネリック医薬品リスト(抜粋)
【内用薬】

成分名	規格	ジェネリック医薬品名	メーカー名	先発医薬品名	メーカー名	採用施設数 (北九州)	採用施設数 (福岡)	採用施設数 (筑豊)	採用施設数 (筑後)	採用施設数 (全県)
【腫瘍剤・抗不安剤】										
トリプロラム	0.125mg/1錠	トリプロラム錠0.125mg「EMEC」	サンノーバ	ハルシオン0.125mg錠	ファイザー	1	1			2
フルニトラゼラム	1mg/1錠	フルニトラゼラム錠1mg「アメル」	共和薬品工業	サイレース錠1mg	エーザイ		1		1	2
	2mg/1錠	フルニトラゼラム錠2mg「アメル」	共和薬品工業	サイレース錠2mg	エーザイ				1	1
プロピプララム	0.25mg/1錠	グッドミン錠0.25mg	田辺三菱製薬	ロヒプソール錠2	中外製薬		1	1		2
		プロピプララム錠0.25「EMEC」	サンノーバ	ロヒプソール錠0.25mg	日本ベーリンガーインゲルハイム					
ジアゼパム	2mg/1錠	ジアゼパム錠2「ウワイ」	共和製薬	2mgセルシン錠	武田薬品工業		1			1
	5mg/1錠	ジアゼパム錠5mg「アメル」	共和薬品工業	5mgセルシン錠	武田薬品工業		1			1
プロマゼパム	2mg/1錠	セニラシオン錠2mg	サント	レキソラン錠2	中外製薬				1	2
	5mg/1錠	セニラシオン錠5mg	サント	レキソラン錠5	中外製薬	1				2
ロラゼパム	0.5mg/1錠	ユーロ錠0.5mg	共和製薬	ロキソラン錠0.5	ファイザー					1
フルプラゾラム	0.4mg/1錠	フルプラゾラム錠0.4mg「トーワ」	実研薬品	ロキソラン錠1.0	ファイザー					1
	0.8mg/1錠	フルプラゾラム錠0.8mg「トーワ」	実研薬品	ロキソラン錠2.0	ファイザー	1				2
トリアゾラム	0.05mg/1錠	グラソラム錠0.05mg	共和薬品	ロキソラン錠80	中外製薬					1
		トリアゾラム錠0.05mg	日本フアーマ	グラソラム錠80	共和製薬	1				1
ロフラゼパミド	1mg/1錠	メチラックス錠	メチラックス	メイラックス錠1mg	Meiji Seika Pharma					1
クアゼパム	15mg/1錠	クアゼパム錠15mg「MNP」	共和製薬(山形)	ドゥラール錠15	大光製薬		1	1		2
	7.5mg/1錠	クアゼパム錠7.5	共和製薬	ドゥラール錠7.5	大光製薬			1		1
		クアゼパム錠7.5	共和製薬	ドゥラール錠7.5	大光製薬				1	1
ゾピクロン	10mg/1錠	ゾピクロン錠10mg「トーワ」	共和薬品	ゾピクロン錠10	サノフィ・アベンチス					1
		ゾピクロン錠10mg「トーワ」	共和薬品	ゾピクロン錠10	サノフィ・アベンチス					1

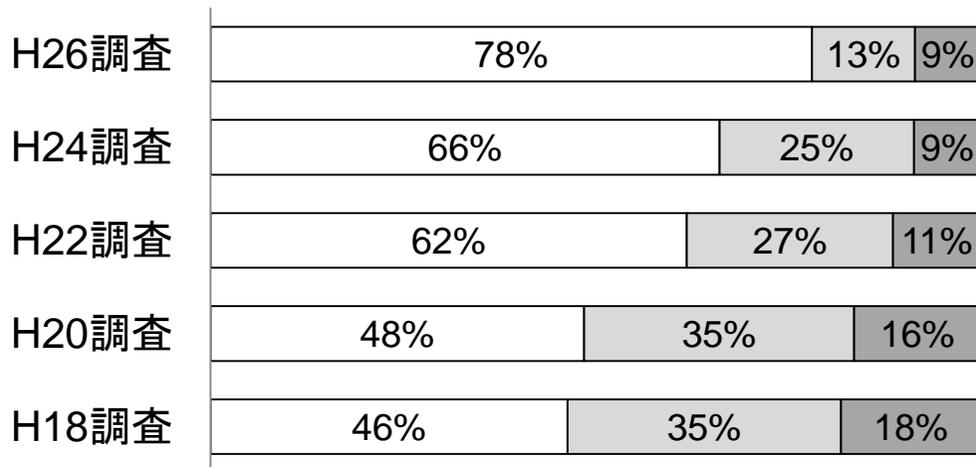
病院・薬局等に対するアンケートについて(1)

県内の病院、薬局や県政モニターを対象に、ジェネリック医薬品に関するアンケートを実施

対象者	実施時期
病院	平成18年度から2年に1度
薬局	平成20年度から2年に1度実施
県政モニター(一般県民)	平成19年度、平成22年度から2年に1度実施

主な結果(病院向けアンケート)

● ジェネリック医薬品の採用について



□ 積極的 □ どちらとも言えない □ 消極的

● (左記で消極的と回答した医療機関において) ジェネリック医薬品の採用に積極的でない理由

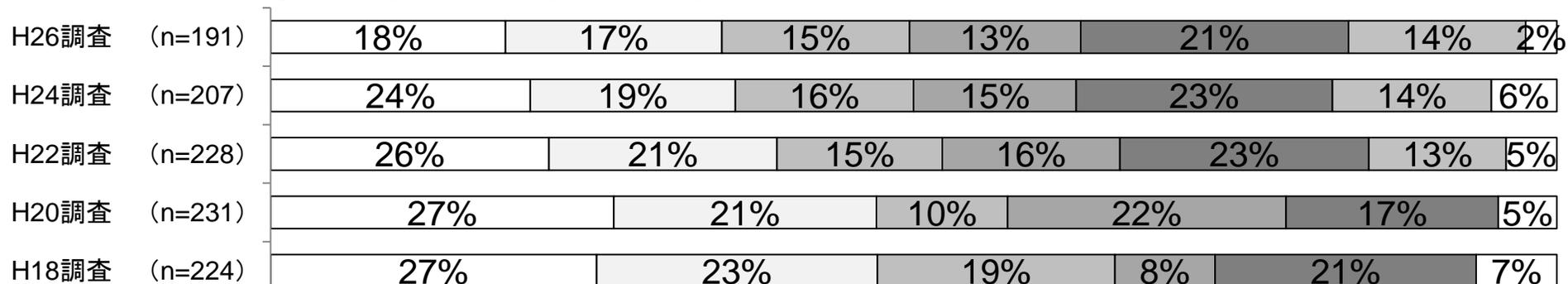
平成26年度調査において、回答数上位であった項目

- 在庫管理が煩雑
- 情報不足
- 品質の不信感
- 安定供給

病院・薬局等に対するアンケートについて(2)

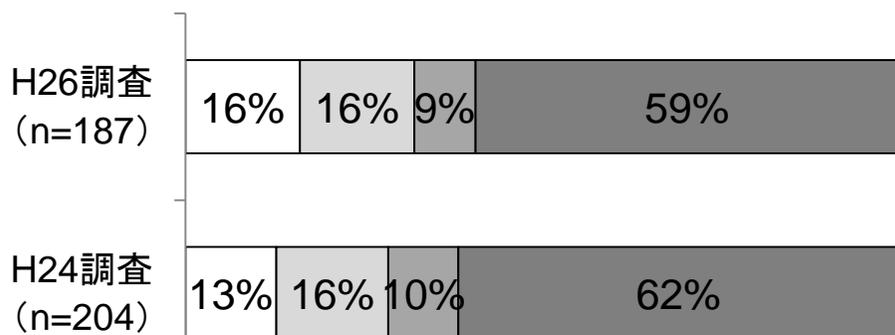
主な結果(病院向けアンケート)

● ジェネリック医薬品の採用時に重視する基準



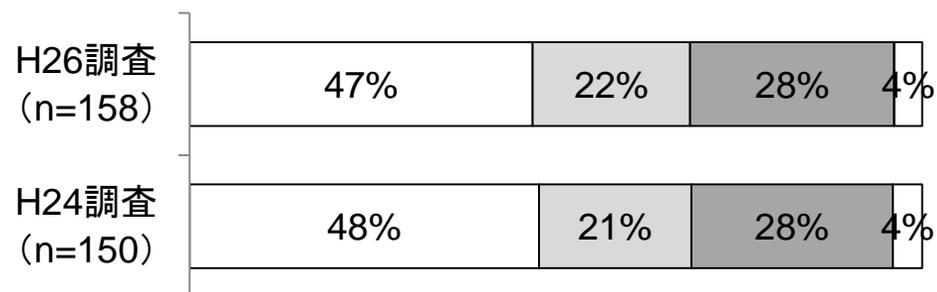
- 安定性等の品質
- 生物学的同等性
- 病院経営への寄与
- 他施設での採用状況
- GEメーカーへの信頼度
- 製剤設計、包装上の工夫
- その他

● 後発医薬品使用体制加算の届出について



- 加算 I
- 加算 II
- 届出の準備をしている
- 検討していない

● 一般名処方の発行について



- 一般名処方を全く行っていない
- 各医師の判断で行っている
- 一部の医薬品で一般名処方を行っている
- その他

病院・薬局等に対するアンケートについて(3)

主な結果(薬局向けアンケート)

●受け付けた処方箋の状況(10日間)

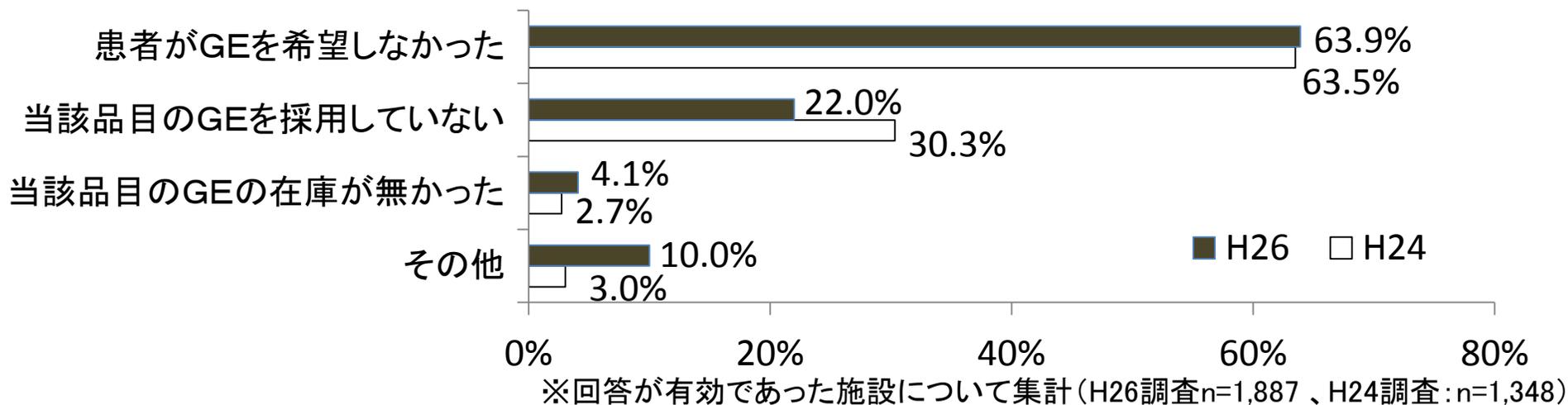
	平成26年度	平成24年度
平均処方箋枚数	433枚	469枚
「変更不可サイン」有の処方箋枚数	96枚	103枚
1品目以上GEを調剤した処方箋の割合	63.3%	58.0%
銘柄指定されたGEをそのまま調剤した品目が1つ以上あった処方箋の割合	31.4%	32.5%
一般名処方方の割合	42.8%	36.6%
一般名処方方のうちGEを調剤した割合	84.3%	78.6%
GEへ変更し調剤した割合	9.6%	7.1%

※回答が有効であった施設について集計(H24調査:n=1,268、H26調査n=1,395)

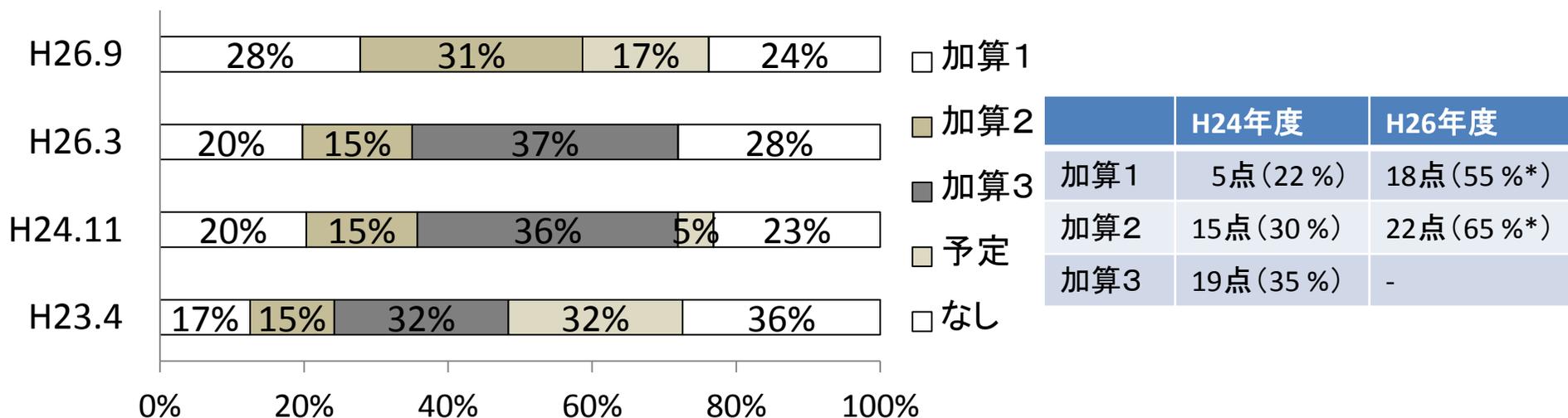
病院・薬局等に対するアンケートについて(4)

主な結果(薬局向けアンケート)

● 一般名処方された品目についてGEを調剤しなかった理由



● 「後発医薬品調剤体制加算」の届出状況

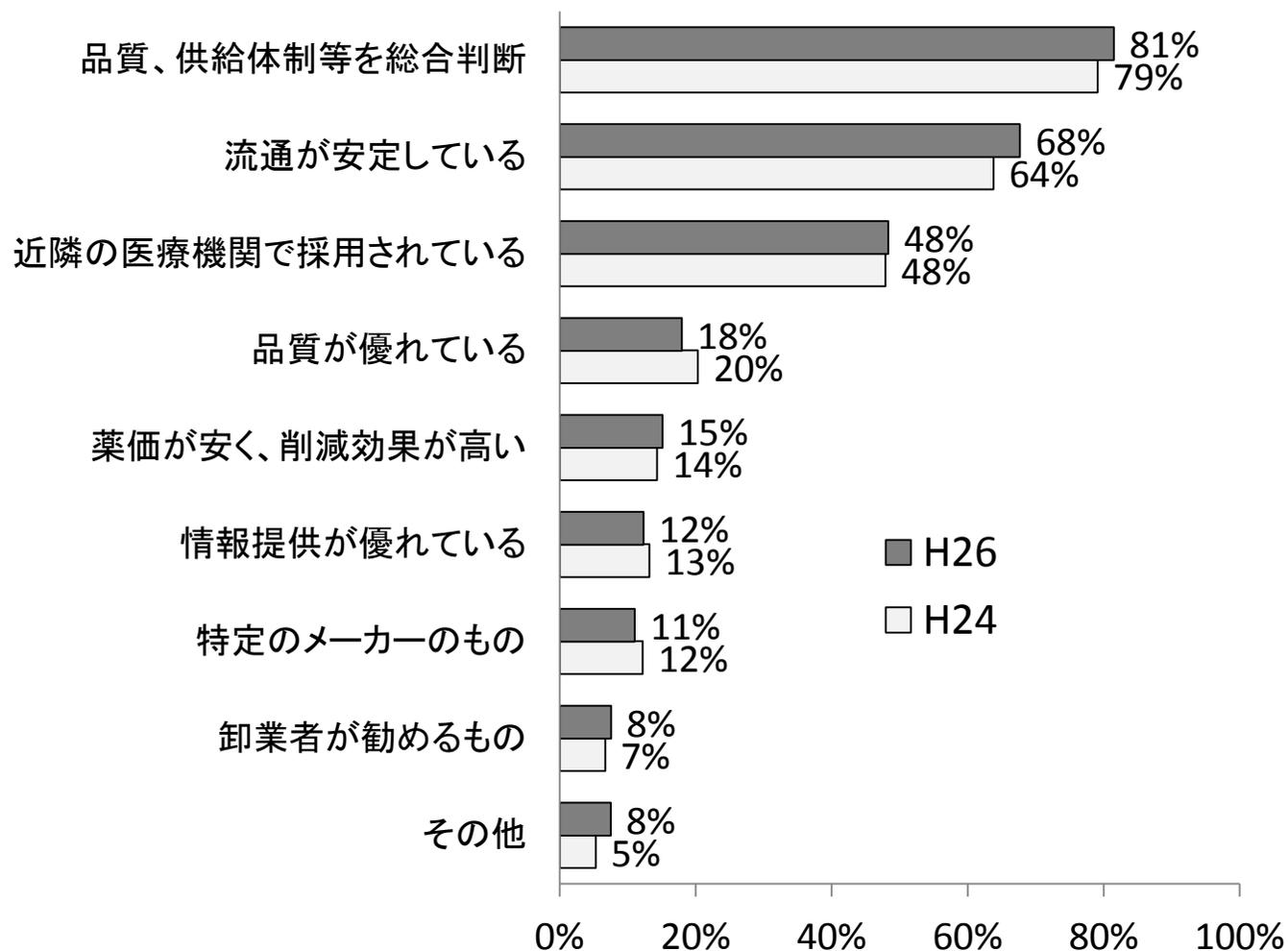


	H24年度	H26年度
加算1	5点(22%)	18点(55%*)
加算2	15点(30%)	22点(65%*)
加算3	19点(35%)	-

病院・薬局等に対するアンケートについて(5)

主な結果(薬局向けアンケート)

● ジェネリック医薬品の採用基準



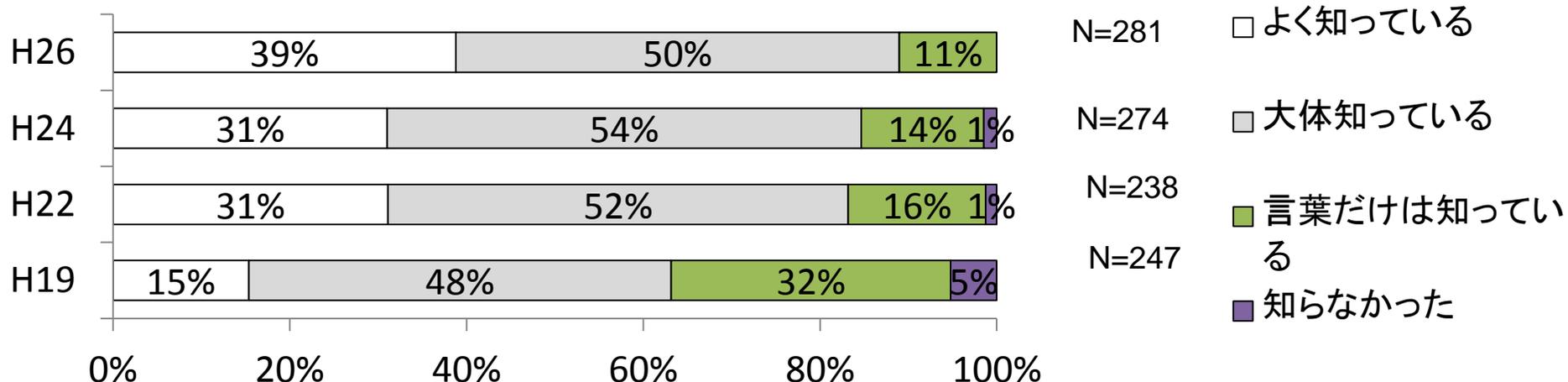
※回答が有効であった施設について集計(H24調査n=1,874、H26調査n=2,117)

※複数回答

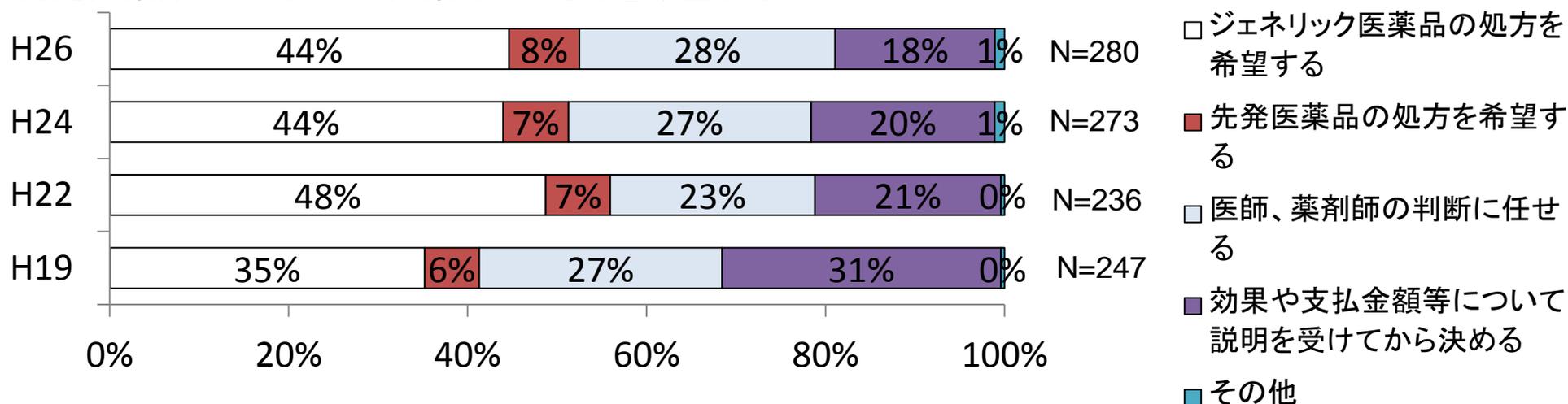
病院・薬局等に対するアンケートについて(6)

主な結果(県政モニター向けアンケート)

● ジェネリック医薬品を知っていますか



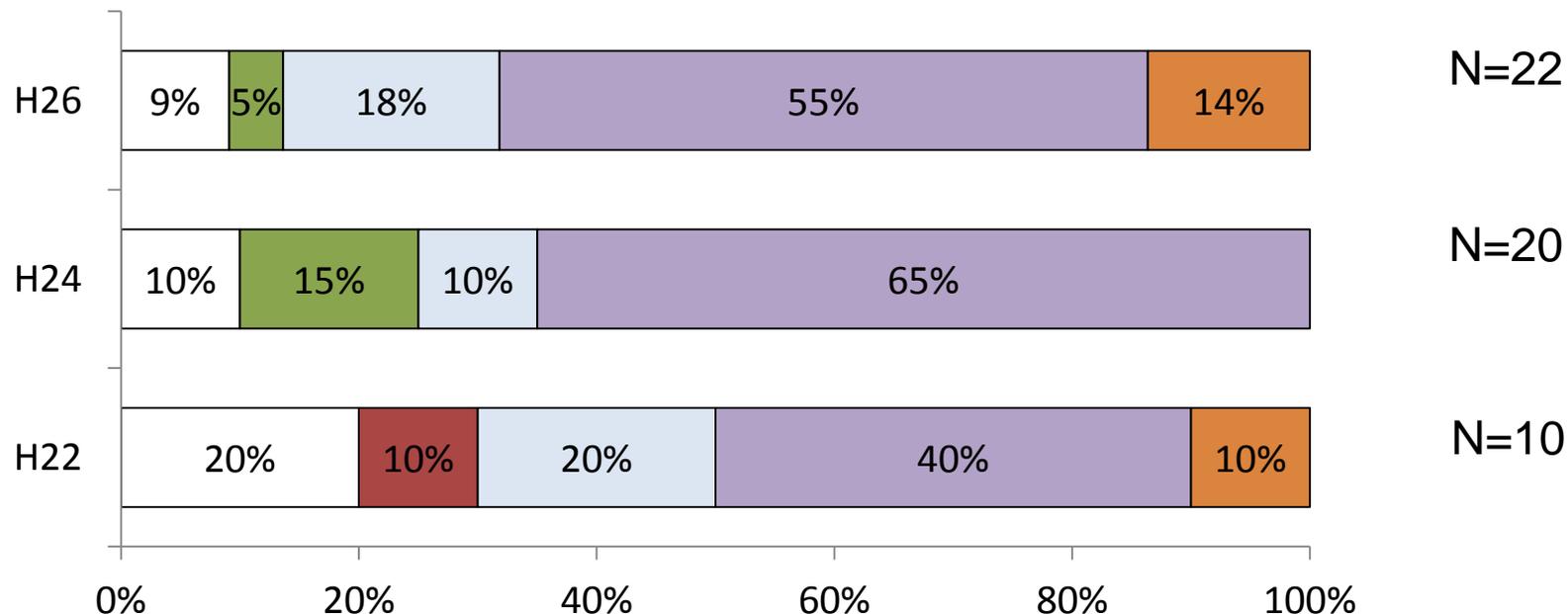
● 先発医薬品とジェネリック医薬品のどちらを希望するか



病院・薬局等に対するアンケートについて(7)

主な結果(県政モニター向けアンケート)

● ジェネリック医薬品を希望しない場合、ジェネリック医薬品を希望しない主な理由



- 医師、薬剤師が、ジェネリック医薬品を勧めないから
- 家族、友人等が、ジェネリック医薬品を勧めないから
- 期待するほど、支払金額が安くないから
- 以前、利用したが、自分に合わなかったから(味、大きさ、使用感など)
- 効果や安全性等に対して、不安があるから
- その他

その他

県政出前講座

福岡県では、県の取組などについて、県職員が県民に対して説明する「ふくおか県政出前講座」を実施している。

薬務課では「ジェネリック医薬品を使ってみよう」と題して、ジェネリック医薬品とは何かということとともに、ジェネリック医薬品の使用促進に関する県の取組についても説明している。(平成21年度から実施)

● 最近3年間の実施実績

年度	実施回数	受講者数
平成24年度	5回	125人
平成25年度	7回	172人
平成26年度	6回	263人

啓発資材の作成・配布

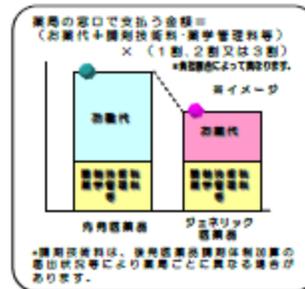
一般県民向けのジェネリック医薬品の使用促進啓発を目的としたパンフレット(ジェネリック医薬品Q&A)等の作成、配布を実施

ジェネリック医薬品を使うと、どのくらい安くお薬が?

ジェネリック医薬品の薬価は先発医薬品と比較して約2〜7割と安くなっています。患者さんが保険薬局で実際に支払うお薬代は、保険によりその金額の1〜3割ですが、残りの7〜9割は保険財政からの負担となります。

先発医薬品からジェネリック医薬品に変更することにより、自己負担の軽減だけでなく、保険財政の負担にも大いに貢献できます。

高血圧や糖尿病などの生活習慣病のお薬のように、長く飲み続ける必要がある場合は、1回に負担する金額があまり減らなくても、長い期間を通してみると、ある程度の金額を節約できます。



ジェネリック医薬品の注意点

- 先発医薬品によっては、ジェネリック医薬品が発売されていないものがあります。
- 病状や体質によっては、医師の判断により、先発医薬品からジェネリック医薬品に変更できないことがあります。
- 医療機関や薬局により、取り扱っているジェネリック医薬品が異なります。
- 薬局に在庫がないとき、お薬を用意するのに時間がかかることがあります。

まずは、
医師・薬剤師にご相談ください。



お問い合わせ

福岡県保健医療介護部
薬務課(監視係)
電話：092-651-1111(代)
092-643-3285(直通)

公益社団法人福岡県薬剤師会
薬事情報センター
くすりなんでもテレホン
電話：092-271-1585

ジェネリック医薬品 Q&A

「ジェネリック医薬品」って最近よく耳にしますが、「なぜ安いのだろう?」「品質や効果はどうなのだろう?」といった疑問をお持ちではないでしょうか。

このQ&Aは、そんな疑問にお答えし、多くの方にジェネリック医薬品をより身近なお薬として、安心して使っていただくために作成しました。